

# あめんぼ通信



ホームページアドレス [www.aikawasizen.net](http://www.aikawasizen.net)

この会報の発行費用の一部は、(財)イオン環境財団の助成によるものです。連絡先：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津6205 TEL 046-284-2121

## 尾山 秋から 冬へ

10/16 ミゾソバの花



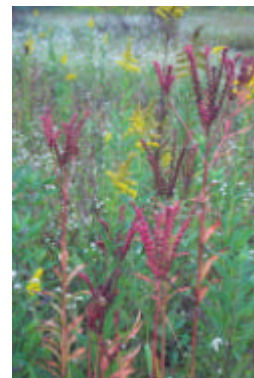
11/27 中津川より八菅山・尾山を望む



12/5 尾山は、なごり紅葉



10/23 イトアメンボ調査補助活動の時に水田の水たまりに、まだ幼虫のコオイムシが静かにしていました。幼虫のまま越冬するのでしょうか・・・。タコノアシはその名の通りに色づきました。



いきものたちは みんな 無事に眠ったでしょうか また 春にあいましょう

11/21～12/6 コオイムシ・タマガムシ・ゴミムシなどの越冬状況調査  
越冬時の分布調査は、尾山耕地 南側が終了し、越冬中のコオイムシを約20匹確認。  
全域調査は、3月上旬から4月初旬までに終わるようにします。



11/27 コオイムシ  
全身、土にもぐって越冬中。  
ちょっと失礼して半身を撮影。



12/5 水溜りで、動かないヤゴ



12/6 コオイムシ 寒気を避け、  
じっと 春を待っています。

「神奈川県・愛川町の尾山耕地における昆虫類の保全に関する研究」について、

## **(財)イオン環境財団の2年目の助成 30万円が決定。**

覚書を交わしました。

報告書の提出期限は平成16年5月31日。

助成金の使途は、以下の通りです。

・活動用資材購入費 13万円

(デジタルカメラ、プリンター等の購入費。1年目の助成でデジタルビデオを購入し、映像記録を撮りました。一部編集済みで、愛川中学の総合学習の地域活動紹介時に使用。ホームページには動画で紹介しています。撮影したい方募集中! 調査の映像記録担当をお願いします。)

・活動補助者経費 2万円(専門研究者、1年目は無し)

・会議費 1万円(会場費、茶菓子代避ける旨有)

・通信運搬費 2万円(切手、電話代等)

・消耗品費 4万円(インク、紙、写真展示用品等)

・調査研究費 8万円(図鑑:1年目は甲虫や植物の図鑑他購入。  
今年にはトンボの図鑑他。報告書作成 調査用具 等)

## **尾山昆虫調査 1年目の報告書をみんなでつくりましょう。**

「神奈川県・愛川町の尾山耕地における昆虫類の保全に関する研究」の一年目の報告書作りが進んでいます。(提出期限 平成15年5月31日)

佐藤誠三さんを全体のまとめ役とし、各項目を分担しながら進めています。種別解説文は、皆さんで分担。種別記録表、分布図は数人で作成中です。

### **感想文(2月末締め切り)や 製本作業(5月初旬予定)は、全員で!**

2年目の継続調査につなぐ大事な作業です。また、1年目の調査報告書づくりと並行して、2年目の具体的な調査方針をたてます。

### **佐藤誠三さんからの提案 報告書とは別に、みんなでつくることを目的のひとつにした尾山の冊子をつくりましょう。**

尾山農道の整備について、愛川町環境経済部農政課にお話を聞きました。(事務局 大木)

尾山農道整備区間は山側水路沿い上流部より118メートル。生き物に配慮するために、国の絶滅危惧種のイトアメンボ調査を行ってきた専門研究者と相談しながら進めていて、今後も意見を聞くとのことでした。イトアメンボだけでなく、その他の生き物たちへの影響も考えて行うそうです。

## 参加報告 ~いろいろな活動との、ネットワークをめざして~ (事務局 大木悦子)

10月26日 講演「野生動植物の保全と市民の役割」 学習・情報交換会：主催 荻野自然観察会  
平塚市博物館 浜口哲一さんのお話から・・・

ヒトは自然から、物質的・文化的な恵みを受けてきた。しかし、人が自然に与える影響が、かつての農村的自然のように生き物が適応できるゆるやかな改変から、時間的に適応できないほどの勢いですすむようになった。どんな自然を守るべきかを判断するものさしも移り変わってきた。かつては、天然記念物・自然公園というように特別な自然を守るとされてきたが、**全国のレッドデータブックが出揃い、環境行政に反映されて、絶滅危惧種を守る「種の保存法」が成立した。**

それに伴い90年代以降の自然保護の考え方は、いろいろな動植物がすんでいるところが大事と考えるようになり、里地・里山の大切さも見直されてきた。少しかたよって「里山こそ大事で、手入れしない森は荒れている」と言う人もあるが、ひとつの見方だけで考えるのは問題と思う。

**エコトーン**：乾いた所から湿った所に移り変わっていくなど、様々な環境について叙々に移り変わる中間的な所、グラデーションが大切になる。

**里地・里山の保全、原生自然の保護、都市環境の中での自然復元** の3つのバランスをとって、**植生自然度(10段階)・生物多様性(生態系の構成種の保護)・猛禽類(生態系の指標・絶滅の危惧)** などの“ものさし”を持って考えることが大切。

野生動植物の保護は「**特定の種の保全をはかることによって生態系を保全していく**」がトレンド。

注目する種の選択 ・**絶滅危惧種** ・**その種の保全があるタイプの生態系の保全につながる**  
・**広い層の市民の関心と共鳴が得られる**

市民の役割 行政的な枠組み作り

- ・**市民版レッドデータ調査**
- ・**種の保存条例の制定運動** (何が絶滅に近いかわかるように調べてつくる)
- ・**種の保存に関する委員会の設立** (自然環境保全審議会の下部組織として)

自主的に出来ること

- ・**特定の種の保全のための研究** (90年代、保全生物学の研究をする人が増えてきた。ひとつひとつの生物を適切に保全するにはどうしたらよいか、市民が試みても良い。)
- ・**保全のための実験** (予測 実験 次のステップ、何が適切かの回答を見つける)

11月16日 講演「**カワラノギクの生態と保全**」と小学生の発表会 主催：カワラノギクを守る会  
明治大学農学部応用植物生態学研究室 倉本宣さんのお話から・・・

レッドデータブック絶滅危惧1B類(近い将来における絶滅の危険性が高い種)のカワラノギクを救うために、保全のための活動の展開上、気をつけなければいけないこととして、

- ・誰でもアクセスできるように記録を残す・その川の系統を使う・多くの個体を親にする
- ・他の生物への影響を考える・やたらに野外に植えない。

いつか丸石河原という生育地を復元して野生に返せる日まで、気長に続くしくみをつくる、など。

11月30日 シンポジウム「**田んぼのいきものたちに聴く国の未来**」

～みんなが生きていけるシステムがある～ 主催：NPO法人メダカのがっこう

- ・長年、水田の不耕起栽培に取り組んでこられた岩澤さんの力強い基調講演。

水田は田起し、代掻きが一般的。不耕起栽培では稲がしっかり根を張って、雑草は少なくなり良いのだが、土が固くなってしまふ。冬期も水を水田に入れること(冬期湛水)で、イトミミズが土をとろとろにしてくれる。サヤミドロの発生で生物相も豊かになり、メダカが棲める水田に戻せた。又、各地の実践者は、生き物が豊かな冬期湛水水田には鳥たちも飛来と話された。

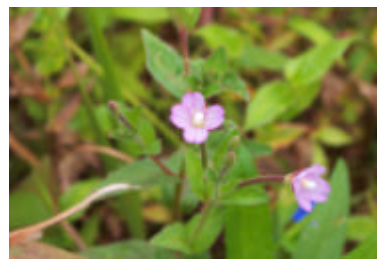
・「メダカのがっこう」では、02年から農法や環境の違いが生物に及ぼす影響調査を始め、水田環境の指標となる生物の検討を行ってきた。ユスリカ、イトミミズ、カエルやクモの調査他の報告。海外の事例報告や、会場から米飯給食に取り組む母親の発言もあり、全国から300人参加の熱気。資料を購入してありますので、お読みになりたい方は事務局まで。後日、不耕起栽培、冬期湛水のテレビ放送もありました。

関連本の紹介(愛川町図書館所蔵) 「メダカが田んぼに帰った日」金丸弘美：著 学研



## インフォメーション

9/26



2003年1月25日(土) 13:30~16:00

テーマ:花ごよみの作り方と大山の花ごよみ

講師 平塚市博物館 浜口哲一先生

厚木市郷土資料館 無料 主催:厚木植物会

厚木郷土資料館特別展「あつぎ地域の草木・花めぐり」もご覧になれます。

こんな募集があります。?? 第5回「田んぼの学校」企画コンテスト・2月28日必着

応募・問い合わせ:社団法人 農村環境整備センター内「田んぼの学校」支援センター

「(社)農村環境整備センターでは、田んぼや水路、ため池、里山などを遊びと学びの場として活用する環境教育「田んぼの学校」の開校を呼びかけ、その活動を支援しています。すでに、このような環境教育活動に取り組んでおられる方、また、これから始めてみようという方、みなさんの「田んぼの学校」を応援します。

応募資格:18歳以上、3名以上の連名、グループ名、企画名をつける。

入賞20点に企画の活動支援金として、各20万円をお支払いします。

選定基準:地域の特性、独創性やプログラムの完成度などを基準に選定。

所定の応募用紙で。発表:各グループに直接、「田んぼの学校」ホームページにて。

応募・問い合わせ先:社団法人農村環境整備センター内「田んぼの学校」支援センター

TEL03-5645-3671/FAX03-5645-3675 URL:<http://www.acres.or.jp/tanbo>

### あいかわ自然ネットワークの展示

2月5~17日 あいかわの自然写真展 中津公民館展示ロビー (中津公民館 休館:火曜日)

2月22日~3月2日 中津公民館まつり

展示(3階音楽室)身近な自然の生き物写真(ビデオ上映予定)他

体験教室 3月1日(土)午後1:30~4:30(3階音楽室)草・木あそび~お手玉づくり~(要申し込み:10人まで)

\* お手玉づくり・3個お手玉・草木あそび・・・お手伝いお願いします。

### 1月定例会は、事務局大木が風邪のため未定

・今年度のまとめと来年度の活動計画・尾山調査まとめと2年目方針など、各自、考えてすすめてください。

#### <編集後記>

・有線放送から聴こえてきた100歳のおばあさんへのインタビュー:小さい頃みんなで遊んだことを思い出す。ふるさとの小学校のわきに小川が流れていて、そこでよく遊んだ。子供の頃、自然の中で遊ぶ体験はとても大事と思う。

今の子供たちにも、学校の先生が自然に親しめるようにしてあげて欲しい・・・。

・15年前から尾山の自然が気に入り、水田奥・山すその空き家を借りて、大和市から毎週通う方とお話しました。その頃はもっと自然度が高かったそうです。会報に投稿をお願いしました。(え)

#### <あいかわ自然ネットワーク会報>

あめんぼ通信 8 発行日 2003年1月21日

#### 会費

・振替口座名 : 名称 あいかわ自然ネットワーク  
・口座番号 : 00210-1-69500  
・会費 : 賛助会員(会報・案内送付)1,500円  
会員 2,000円 家族会員 3,000円

申し込み・問い合わせ:あいかわ自然ネットワーク事務局 大木悦子  
〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6205  
TEL 046-284-2121 e-mail [npo@aikawasizen.net](mailto:npo@aikawasizen.net)

<編集> 編集 吉川久美子 大木悦子